

# JACET中国・四国支部 Newsletter

## 第31号

### 目次

|   |              |        |
|---|--------------|--------|
| 1. 巻頭言                                  | 支部長 岩中 貴裕    | pp.1-2 |
| 2. 2023 年度 春季研究大会報告                     | 事務局幹事 寺嶋 健史  | pp.3-4 |
| 3. 2023 年度 支部第1回役員会報告                   | 事務局幹事 寺嶋 健史  | p.4    |
| 4. 2023 年度 支部研究会 OPP イベントについて           | OPP 代表 三熊 祥文 | pp.4-5 |
| 5. 2023 年度 秋季研究大会発表応募要領                 |              | pp.5-6 |
| 6. 2023 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』第 21 号投稿募集 |              | p.6    |
| 7. 事務局だより                               |              | p.7    |
| 編集後記                                    |              | p.8    |
| <b>【重要】</b> ニュースレター (NL) 配信についてお願い      |              | p.8    |

## 1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩中 貴裕

中国・四国支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。前期の授業もほぼ終わりを迎えられている頃だと思います。私を含めて、まとまった研究時間を確保することができる夏休みを楽しみにしておられる方も多いのではないのでしょうか。

詳細は支部研究大会報告でご確認いただ

けますが、2023年6月3日(土)に安田女子大学で春季研究大会が対面で実施されました。対面での実施は、2019年秋季研究大会以来です。会場校の先生方をはじめとしてご尽力をいただいた先生方に心よりお礼申し上げます。対面の素晴らしさを改めて感じることができました。

最近、生成型 AI という言葉を耳にする機会が増えました。生成型 AI は人工知能の一種で、与えられた入力データから新しいデータを生成することができる技術です。皆さんがご存じの Chat GPT も生成型 AI のひとつです。私は現在、授業準備の効率化のために Chat GPT を利用しています。

先日の授業で Environmental Protection について扱いました。授業開始時の Warm-Up Question を考える時間がなかったので、Chat GPT に作らせました。

### Warm-Up Question

Plastic waste has a significant impact on the environment. What should we do to reduce plastic waste?

模範解答をいくつか準備しておいた方がいいと思ったので Chat GPT に問いに対する解答を 5 つ作成させました。

1. Use reusable bags: Carry reusable bags when shopping.
2. Avoid single-use plastics: Choose alternatives like paper straws, bamboo cutlery, and refillable water bottles.
3. Recycle properly: Sort and recycle plastic items according to guidelines.
4. Choose plastic-free packaging: Opt for minimal or plastic-free packaging.
5. Spread awareness: Share information and promote sustainable practices.

正確な時間は覚えていませんが、数分で準備ができてしまいました。解答例を作成してくれるのでとても便利です。

Chat GPT はクリエイティブな作業もできるようです。以下のようなプロンプトを与えてみました。

### 【プロンプト】

JACET は英語教育の専門家のための学会です。高いレベルの研究者が集まっています。この学会の存在価値をアピールするコ

ピーを英語で 3 つ考えてください。

すると Chat GPT は、次のようなコピーを考えてくれました。

1. Unlock the Power of English Education: Join JACET for Language Scholars and Educators.
2. Elevate Your Expertise: Connect with the Leading Minds in English Education at JACET.
3. Shaping the Future of English Education: Join Forces with the Best and Brightest at JACET.

私が使用しているのは、Chat GPT-3.5 です。私は使ったことはありませんが、有償版の Chat GPT-4 は Chat GPT-3.5 とは別次元の仕事をしてくれると聞いています。

生成型 AI をどのように活用するのかについては様々な意見があります。レポートを書くために使うというのは問題外ですが、生成型 AI を使うことによって仕事の効率化がもたらされるのは事実です。

最後に 10 月 21 日（土）に松山大学で開催予定の秋季研究大会について説明させていただきます。2023 年度の秋季研究大会は松山大学大学院言語コミュニケーション研究科との共催になります。通常の研究発表に加えて JACET 会員以外の方による講演会を開催します。早稲田大学の李在鎬（リジェホ）教授をお招きする予定で準備を進めています。李在鎬教授は言語教育における AI の活用非常に造詣が深い方です。

李在鎬教授が現在取り組んでおられる研究テーマに「論理的文章作成を支援するウェブ型自動処理システムの開発と普及に関する研究」（課題番号：19H01273）、「リーダビリティシステムを活用した日本語テスト問題の自動作成に関する研究」（課題番号：19K21637）があります。興味深いお話が聞けるとおもいます。皆さんに秋季研究大会でお会いできるのを楽しみにしています。

（山口県立大学）

## 2. 2023 年度春季研究大会報告

2023 年 6 月 3 日 (土) に、第 1 回中国・四国支部春季研究大会が開催されました。久しぶりの対面での実施ということもあり、会場は賑わいました。大会には約 35 名の参加がありました。

総会と開会式に続き、研究発表が 2 室に分かれて 3 件ずつ、計 6 件行われました。第 1 室では、次の 3 件が発表されました。

- ・「YASUDA SYSTEM、Moodle および Zoom による英語演習」(English Practice through YASUDA SYSTEM, Moodle and Zoom)

松岡博信先生 (安田女子大学)

- ・“Voices from a Self-Access Center: Investigating learners' continued attendance” (セルフアクセスセンターへの学生の継続的な参加に関する調査)

Gerardine McCrohan 先生

Gareth Perkins 先生

(Kagawa University)

- ・“How Can We Increase the International Posture of Japanese University Students?” (日本の学生の国際志向性を高めるにはどうすれば良いか?)

Wiley, Ian 先生

(Kagawa University)

第 2 室では、次の 3 件が発表されました。

- ・「日本語の主語・目的語省略に起因する英語の代名詞の不適切な使用 ―日本語を母語とする中・上級英語学習者の場合―」(Inappropriate Use of English Pronouns due to Subject/Object Omission in Japanese: A Case of Intermediate and Advanced Japanese Learners of English)

西谷工平先生・中崎崇先生

(就実大学・京都橘大学)

- ・“A Report on Key Points for Teaching

English at Elementary School - Selected by Teacher Trainee Students”

(教員養成課程 2 年生が選んだ小学校英語指導のキーポイントについて)

Paul Batten 先生

(Kagawa University)

- ・「高専 1 年生に対する体育 CLIL の可能性 (6) ―英語を使用した卓球の授業を事例として―」(The Possibilities of PE CLIL for the First-year Students at National College of Technology Part 6: A Case of Table Tennis Classes in English)

二五義博先生 (山口学芸大学)

伊藤耕作先生

(宇部工業高等専門学校)

研究発表の後、三熊祥文先生 (広島工業大学) による特別講演が行われました。講演題目は「教育的文脈における『祭り』の持つ力、否、『祭り』こそ教育であるということ」。「祭り」とは端的に言えば、非日常的な空間に人が集い、見る者・見られる者が神聖とも言える目的を共有し、その場を盛り上げる所業(イベント)と言えるでしょう。三熊先生は、現在中国・四国支部の Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会の代表ですが、OPP 活動の神髄がまさにこの「祭り」にあること、そして OPP に限らず、教育には「祭り」が不可欠であるとのメッセージを寄せられました。講演では、三熊先生の十八番であるスピーチ指導の方法、それも電車のガタゴトの音声を応用したようなユニークな方法が紹介されました。三熊先生の「祭り理論」は『JACET 中国四国支部紀要』(13 号, pp. 1-18), 『JACET 中部支部紀要』(17 号, pp. 11-25) などで論じられています。岩井千秋 (元広島市立大学)

本研究大会で発表頂いたみなさま、参加して下さったみなさま、そして会場校の安田女子大学のみなさまにお礼を申し

上げます。

寺嶋健史 (松山大学)

### 3. 2022 年度 JACET 中国・四国支部

#### 第 1 回役員会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2023 年 6 月 3 日 (土) に 2023 年度第 1 回支部役員会が開催され、2023 年度の活動、2023 年度中国・四国支部人事、2024 年度の事業計画について審議を行いました。

2023 年度 (後期) および 2024 年度事業計画についてお知らせいたします。

1) 2023 年度秋季研究大会

日程：2023 年 10 月 21 日 (土)

場所：松山大学

2) 2023 年度 Oral Presentation & Performance (OPP) Event

日程：2023 年 12 月 10 日(日)

または 17 日(日) 予定

場所：未定

3) 2024 年度春季研究大会

日程：2023 年 6 月

場所：山口県内の大学

4) 2024 年度秋季研究大会

日程：2024 年 10 月

場所：香川県内の大学

5) 2024 年度 Oral Presentation & Performance (OPP) Event

日程：12 月中旬

場所：未定

6) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』(第 21 号)

発行：2024 年 3 月 31 日 (予定)

・支部ニューズレター

発行：2023 年 7 月 31 日 (第 31 号)

2024 年 1 月 20 日 (第 32 号)

### 4. 2023 年度支部研究会 OPP イベントについて

OPP 代表 三熊 祥文

5 月にコロナが二類相当から五類に変更となり、そこそこ感染事例は出ているものの、さまざまな取り組みの運営手順はコロナ前に戻りつつあります。スピーチコンテストも例外ではなく、昨年はオンラインだった大会も今年は対面が復活の見込みですし、一足先に対面で実施していた大会も、

昨年までは開催にアクリル板やマウスシールドなどを用いることが条件づけられていたものがその足枷から解放され、通常開催が可能になる模様です。このような空気の中で OPP 研究会では今年も Oral Presentation & Performance (OPP)を開催し、英語コミュニケーション能力の向上に粉

骨砕身する学生の支援をいたします。

教育活動に携わる私たちにとって壁となる“**conflict**”はここ3年ずっとコロナであり、「コロナを前にして私たちは教育とどう向き合うべきか」というのが問題意識でした。ところが昨年末、突然新たな**conflict**が頭をもたげてきました。「生成系AI」です。その圧倒的な生成力を前にして、教育とは何かという根本的な問いなおしを突きつけられています。作品披露の場であるOPPのようなイベントにおいては、作品とは何かということ突き詰める必要が出てくるでしょう。スピーチなどであれば、生成系AIが大きく関与してくる可能性を考えなければならなくなりました。長崎の高校の英語授業におけるChat GPTを利用したスピーチの添削が好例であるように、私としては、使えるものは使おうという立場ですが、作品がそこにあるだけではコミュニケーションは起こりません。OPP的パフォーマンスはChat GPTが力及ばぬ領域に踏み込みます。それは“**Delivery**”です。作品が然るべき解釈と、それを伝えるvesselたる**delivery**が適切に介在してこそそのコミュニケーションです。そして、その作品に込めたメッセージを他人に伝えようと**deliver**することによって話者自身にもメッセージの**redefinition**に伴う**digestion**すなわち言語材料の栄養化が起こります。これは未だAIに「やらせる」ことができない領域として厳然として残っています。

今年は前述の通りパフォーマーとオーディエンスの間を遮るアクリル板もマス

クもマウスシールドも取り払って「コミュニケーション」をすることが可能になりそうです。学生さんたちには存分に作品の「栄養化」を堪能してもらいたいと思います。

OPPでは会員の皆様のご参加をお待ちしております。会場は現段階で未定となっておりますが、8月末まで申し込みを受け付けますので、奮ってご応募ください。

募集期間 8月31日(土)まで。  
開催日時 2023年12月10日 or 17日  
(日) [変更の可能性あり]  
10時～17時頃まで  
開催場所 未定

#### 募集条件

1. JACET 支部会員であればどなたでもエントリー可。
2. 先生方が指導されている学生さんによるプレゼン。
  - ・各大学の発表時間は最長20分まで
  - ・テーマ、発表形式は自由
  - ・先生の発表ご参加も歓迎
3. 受付は先着順で、8校程度まで。

お問い合わせはメールにて代表者へ。  
[y.mikuma.ir@cc.it-hiroshima-ac.jp](mailto:y.mikuma.ir@cc.it-hiroshima-ac.jp)

(広島工業大学)

## 5. 2023年度 秋季研究大会発表募集要領

2023年10月21日(土)に2023年度秋季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部秋季研究大会

日時：2023年10月21日(土)

- A) 応募情報 (英語での併記もお願い致します)
- (a) 発表題目 (Title): 日本語と英語
- (b) 種別 (Style): 自由研究発表、実践報告、事例研究など
- (c) 氏名 (Name)

- (d) 研究領域 (Research area)
- (e) 概要 (Abstract) : 目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など。日本語の場合は 600 字以内、英語の場合は 250 words 以内とする。
- (f) 所属 (Affiliation)
- (g) 使用機器 (Equipment needed)
- (h) 連絡先 (Contact address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

- 2023年9月30日(木)  
午後11時59分まで
- 申込先

下記支部 HP の申込フォームをご利用ください。

研究発表及び参加申込みフォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S23969810/>  
(7月30日~9月30日まで申込み可能)

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML、および支部 HP でお知らせします。(支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 寺嶋 健史

tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

## 6. 2023年度『JACET中国・四国支部研究紀要』第21号

### 投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記のとおりです。

■論文投稿申込締切り：9月末

■投稿原稿締め切り：10月末

■審査結果通知：12月末

■修正原稿締め切り：1月末

■刊行：3月末

※年次国際大会や支部大会で口頭発表されていない場合でも、紀要の投稿規程により、論文を投稿することはできます。

投稿先：支部HP フォームズから

仮題目提出

<https://ws.formzu.net/fgen/S42433433/>

投稿原稿

<https://ws.formzu.net/fgen/S47515527/>

お問い合わせ：紀要編集委員会委員長  
中山 晃 (愛媛大学)

E-mail:

nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp

## 7. ～事務局だより～

2023年1月から2023年7月までの新入  
会員2名をご紹介します。

### ★新入会員紹介★

Batten, Paul (香川大学)  
Burrows, Christian (広島県立大学)  
(敬称略)

皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

2023年度の支部人事および本部運営委員  
員をお知らせいたします。支部活動発展の  
ために力を尽くしますので、よろしくお願  
ひいたします。

### ★支部人事★

#### 【支部役員】

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)  
副支部長 平本哲嗣 (安田女子大学)  
寺嶋健史 (松山大学)  
支部幹事 (\*は事務局幹事)  
寺嶋健史\* (松山大学)  
山中英理子 (広島国際大学)

支部会計担当者

小崎順子 (川崎医療福祉大学)

支部研究企画委員 (24名)

五百藏高浩 (高知県立大学)  
池野 修 (愛媛大学)  
岩井千秋 (広島県立大学)  
岩中貴裕 (山口県立大学)  
ウィリー・イアン (香川大学)  
上西幸治 (福山大学)  
折本 素 (愛媛大学)  
カワモト・ジュリア (愛媛大学)  
小崎順子 (川崎医療福祉大学)  
小山尚史 (岡山大学)  
高垣俊之 (尾道市立大学)

田淵博文 (就実大学)  
ダンテ・ローレンス (就実大学)  
寺嶋健史 (松山大学)  
中住幸治 (香川大学)  
中山 晃 (愛媛大学)  
二五義博 (山口学芸大学)  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
松岡博信 (安田女子大学)  
三熊祥文 (広島工業大学)  
三宅美鈴 (広島国際大学)  
森谷浩士 (岡山大学)  
山川健一 (安田女子大学)  
山中英理子 (広島国際大学)

### 【本部委員】

理事 岩中貴裕 (山口県立大学)  
総務委員会 (支部事務局幹事)  
寺嶋健史 (松山大学)  
財務委員会 (支部会計担当者)  
小崎順子 (川崎医療福祉大学)  
国際大会組織委員会本部  
山川健一 (安田女子大学)  
『JACET 通信』委員会  
森谷浩士 (岡山大学)  
学術出版委員会紀要担当  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
学術出版委員会 Selected Papers 担当  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
セミナー事業委員会  
中住幸治 (香川大学)  
研究促進委員会  
二五義博 (山口学芸大学)  
学術交流委員会  
ウィリー・イアン (香川大学)  
大学英語教育学会賞運営委員会  
池野 修 (愛媛大学)  
学術出版委員会 Selected Paper 担当  
中山 晃 (愛媛大学)  
平本哲嗣 (安田女子大学)

### 【編集後記】

今年度からは研究大会が対面での実施となり、パソコンの画面に映る顔しか見れなかったこれまでとは違い、久しぶりに賑わいが戻ってきました。その一方で、研究大会などの各種行事を対面で開催するにあたり、以前はどのような順番で何から始めたのか、どのように実施していたかをすっかり忘れ

てしまっていて、感覚が戻らないことが準備や運営面で結構ありました。徐々に通常モードにしていかなくてはなりません。

10月の秋季研究大会については松山大学で実施予定です。みなさまとお会いできるのを楽しみにしています。

### 【重要】 JACET (大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet-chushikoku.com/>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ (<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。
3. ウェブの入力フォームに以下の【入力情報】を入力する。

### 【入力情報】

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

- すでに登録している
- 希望する
- 希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の寺嶋までお問い合わせください。

アドレス : [tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp](mailto:tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp)

メールアドレスを変更された方は、事務局までお知らせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第31号

2023年7月31日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部 支部代表 岩中 貴裕

編集 : JACET 中国・四国支部 事務局幹事 寺嶋 健史

発行所 : 〒790-8578 愛媛県松山市文京町4番2号 松山大学 人文学部

連絡先 : E-mail: [tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp](mailto:tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp)